

# 会報 八丈島三根会



三根会ホームページ

八丈島三根会



検索

八丈島と三根と私達！

八丈島三根会

HOME

三根会開催日程  
クラスの近況

三根会会報誌  
三根会写真集

三根会参加申込  
八丈島運動動画

組織や団体など  
八丈島リンク集

その他の情報  
読者投稿記事

三根小学校  
2019 運動会

東京及びその近郊で  
楽しめる八丈島の食事

＝第37回八丈島三根会も無事終了＝

●第40回三根会総会について  
日時：2022年11月5日(土)

■わたしたちは八丈島生まれ、八丈島育ち  
東京から南へ海を渡って290キロ、ここは太平洋への玄関口、南海の島「八丈島」。青い海と緑の山に囲まれ、豊かな自然に恵まれた島です。私たちはここで生まれ、育ちました。

八丈島三根会は三根小学校の卒業生、三根地区出身者によって東京で作られたふるさと会です。  
昭和57年に在京そして関東近辺に住んでいる先輩の方達で結成され、毎年、三根会総会が大手ホテルなどで

最新情報  
※ホームページの更新情報を掲載しています。

- 8/30「ラセイタマアジサイ」
- 1/23「学年クラスの近況(36年度卒業)」
- 12/22 東京及びその近郊で楽しめる八丈島の食事(更)
- 1/23「八丈島のめならべQSLカード」
- 1/16 第39回パブリックロードレース (更新)
- 11/18 三根小学校運動会2019
- 9/6「島の野鳥と懐かしい風景」
- 8/31「お盆の八丈島2019」
- 6/12 三根会写真集2019

お盆の  
八丈島2019

年末年始の  
八丈島

Vol.

7

2022.11.05

第40回八丈島三根会開催日発行



## パンデミックの今と昔

昭和三十六年度卒 八丈島三根会会長 峯元 信博

この2年半余り、コロナ感染の拡大で我々の生活は一変してしまいました。いまだにコロナ感染は続いています。現在位置は以前に比べれば社会もだいぶ落ち着いてきたように感じます。世の中の経済や我々の生活もコロナ前に戻ろうとしています。

そんなパンデミックを経験した私たちですが、それでは昔の人たちの時代ではパンデミックはどのような状況だったのでしょうか。ここに八丈島での感染症の事例があつたので少し紹介したいと思います。八丈島の古文書の研究者である「對馬秀子」先生の文書です。ここから少し引用して八丈島のパンデミックはどのようなものだったのか書き出してみたいと思います。

昔の感染症の主だったものは疱瘡（天然痘）で八丈島でも多くの感染症の事例がありました。八丈島みたいな隔離された島では本来、伝染病はなく、ほとんどが外来から漂着船や江戸からの帆船だった、ということです。そしてその感染症は主に疱瘡であつたそうです。對馬秀子先生のその古文書の研究資料では古い記録では1463年（寛正四年）正月より八丈島、小島共に初めて疱瘡流行し600人余り死亡とあります。その後1641年（寛永十八年）小島に疱瘡が流行53人病死との記録がありました。そして江戸時代が栄えていた中で、本土と八丈島の往来も活発になって人の行き来も増え、感染症の流行の機会も増えてしまったようです。

1711年の八丈島での死亡者285人、翌1712年に283人、その後も1865年までの間、幾度となく感染症の流行があり、島内の各地区で多数の死亡者が出たと言うことです。この時代より感染症対策は今と変わらず「患者を隔離し接触を避ける」という方法だったといわれています。「疱瘡を病むものをその土地に入れず、疱瘡のある所へは通行せず、まれにその毒に香触れて病むものは飛び疱瘡と名付けて村里を離れしところに小屋を作り、痘瘡を病みたるものに介抱を頼み、かさぶた落ちた後に家に帰る」。この時代でもこういった基本的な対策はあつた、ということです。その時代の八丈島でも伝染病が流行るとその地区や集落の通行を止めて

遮断する、病人を隔離するという対策を行っていたということです。時には坂下で感染症が流行した際に集団で大賀郷などから数百人も坂上に避難した事例もあるそうです。そんな疱瘡の流行の中で他にも対策の一つとして、今でいうワクチンが江戸幕府から届けられた記述も残っているということです。1723年「疱瘡妙薬牛糞黒焼仕法」が幕府からとどけられたとの記載も古文書にあつたそうです。牛の糞を使った治療法です。牛や馬の糞で治療する。何か昔、聞いたような話ですね。

ではこのようなパンデミックの状況下で私たちの先祖の人たちはどういう生活を強いられてきたのだろう。昔の八丈島では飢饉の年も多く、通常の生活でも食料事情は厳しいものであつた、と聞いています。島の人たちにとつてそんな中での感染症の流行りは大変な苦難を伴った状況だったに違いありません。食物をきちんと手に入れたのだろうか？農作業、漁業、商売などできたのだろうか？老人、子供たちへの影響はどれほどのものだったのだろうか。この時代の八丈島の先祖の人たちに思いを馳せると、パンデミック襲来でその生活は今の私たちよりも数倍もの困難を極めたものだったのだろうと想像に難くありません。

このように昔の人たちも今と変わらぬ対策でパンデミックを乗り切ってきたのです。そして多くの犠牲者を伴っている点も今と変わらないようです。現在のコロナ感染の始まりでも八丈島での感染者は本土で流行したのち、しばらくしてから来島者からの感染で第一号の患者が出たのは周知のとおりです。

今回のコロナ感染拡大は現在（2022.9.30）、世界中で6億人以上の感染者が出ています。日本でも2千100万人以上の感染者数だ。外国では厳しい隔離制限が取られ、一時外出禁止措置まで取られた国もあつた。中国ではさらに厳しく、多くの都市にロックダウンが布かれ完全に街が遮断されました。日本でも強制ではないがなるべく外に出ないように、無用な外出は控えるようにと都知事が毎日、テレビで訴えていた。人々は外へ出ないので外食産業をはじめ商業施設の店内は人影がなく、そして観光地などは閑古鳥が鳴いていた。夜の飲食街には特に厳しい制限が掛けられ、商売もままならない状況だ。多

昭和三十一年度卒 中田 美津子

振り返ってみるとずいぶん年月が経ってしまいました。一番心に残っている事というは我家の前の道路が(昔のブッサン辺り)舗装された時の頃、すごくうれしかった。

今のNTTの下の辺りにおばアちゃんの家が有り、そのおばアちゃんが月に一回、いや週に一回くらいカレーを作ってくれ(その頃あまりカレーにはなじみがなかった)よんでくれた。カレーはもちろんうれしかったけど舗装された道路を裸足になりなぜか皿を右手くつ(ゲタ?)をもって歩いて行った事、舗装された道路は暖かかった……とか。

遊ぶ道具は何もない時代で、自然の中に飛び出していき、二、三人の男の子相手と(私は女です)田んぼに行った川に行った山に行ったり、夕方になると近所の上級生下級生が大勢集まり道路で(車は通ってません)はしりつくらをしたりかくれんぼより缶けり等々して暗くなるまで、叱られた。

我が家のちょうど真前の山に観音様があり、いつもの遊び場でした。そこに今もあるかな

桜の古木が有りその木から枝づたいに下の田んぼ迄地につかないで下りてくる遊びやら:アー なつかしい……。

まさに男まさりの子供時代。高校を卒業して東京へ。大田区の蒲田のアパートで一人暮らし。最初は電車に乗る事もわからず、帰りもまっすぐ帰り、時間が余りすぎ、暇つぶしといつては申し訳ないのですけど日踊のけいこをはじめ、何年かすぎた頃島に居る歳とった両親が二人きりになり、車を買ってもらえる約束で八丈へ帰って来る事に。

せめて踊りでと思い名前をとり(お金はかかりました)泉流の名取の看板をもって帰ってきました。下手くそなりにお弟子さんの振りを直していくうち自分の勉強に成り、まアーまアーずーと休まず十八歳から五十七年間踊ってます。古典舞踊は深みがあり楽しいし身体の為にもなるし、ボケ防止にもなるし最高です。毎日踊って遊んで畑をして、クラス会はずぐ集まって呑んでいます。楽しい人生を送っている今日此頃です。



くの患者は入院、もしくは軽症者でも隔離生活を余儀なくされ長い間外出もできなくなっていました。また、そのコロナ感染の対応に当たる医療施設は患者の増加に伴い、多忙を極めていた。全国の病院、保健所などは毎日がパニック状態となり関係者は満足な睡眠時間もとれないほどの状態となっていた。そして養護施設や保育園、学校などの施設も神経質な対応を余儀なくされた。そして当然私たちの集まりも中止せざる得ない状況となつて三根会総会も2年続けて2回も中止となつてしまった。役員の打ち合わせもテラスのある店の外で会議をこなし、メールや携帯での連絡打ち合わせで済ませてきた。われわれの日常も制限され続けてきた。この間、スパーやその他の出入りするどこの施設でもきちんと距離をとって並び、マスク必着だ。友人仲間との飲み会も未だにできず2年半も辛抱し続けている。ストレスがたまる一方だ。そんな状況下でも安全な場所ですトレスを解消する場所はある。公園など外の自然環境の中で過ごせる時間を持つことだ。他にも山や海など、まさしく今こそ自然と戯れてナチュラルに過ごす時かもしれない。外でプレイするゴルフ場もこの間、賑わっていたらしい。コロナ下で自分も自転車でも外出する機会が増えた。乗り物を使わず、自転車で行動する。遠くの公園や大きな商業施設まで遠出の外出なども自転車では可能だ。

マスク生活は今も日常の行動で必須条件のままで。しかし、こんな収縮した世の中の状況下の生活でも昔のパンデミックと比べてみれば私たちの現実の生活はずっとましな方なのだ。家ではなんとかおいしい食事やビールは飲める。テレビや携帯のネットでの映画やYouTubeなどで楽しめる。安全な場所を選べば外出も可能だ。昔の人たちが耐え忍んだ生活とは打って変わって今は便利な機能的な生活環境があり、それなりに満足できる時代ではあると実感できる。

いずれにしても早くこのコロナ感染症の状況が終わってほしいと思うのは私だけではなく、みんなの切なる願いだと思う。

昭和二八年度卒 八丈ロマン派より

昭和29年飛行場に飛行機が飛んで来る、ごく当たり前の話ですが、思い返すと小学校4・5年の頃と思います。学年集団で、戦後整備されたことの無いと思いますが、その飛行場に飛んで来る瞬間を見学に行った記憶があります。

今か今かとしばらく待つと単発と思われる、小さな飛行機が上空を何回か旋回した後に着陸態勢に入り、トンボが田んぼに舞い降りるように、無事着陸しボディに青木航空と書かれた4人乗りの機体に歓声を上げ感動したのを覚えています。今考えると、八丈島に大きな発展と大きな夢を与えてくれたスタートと思います。

現在、私も島を離れ半世紀以上経過致しました。今更八丈島の事を掲載ことに非常に僭越で苦笑されることを背に、私的な思いをつづらせて頂きます。

年号も代わり近年では、滑走路も整備され200人近く搭乗出来る飛行機が往来する時代になっています。あの単発の時代から半世紀、八丈島も行政の下で地番整備も進み未来に向け成熟した街造り完成しつつあります。

減少化する人口問題等々課題は山積みですが、行政が進める島民の為の地番整理等をハード造りとする、

共に並行して進めたいと思うのが住民の為の文化創り、進みつつある島民によるコミュニティ活動等を含め、更に街おこし活動に積極的な文化的ソフト創り施策の検討はいかがでしょうか。

文化創りには、民間の知恵と行政の理解と支援がなければ進まない部分があります。



ハードとソフトは車の車輪のように双方が同時に回転することでより充実した住み良い、うるおいのある街造りが完成される気がします。

各地で近年行われている活動の一環として、伝統的な文化の掘り起しをマスコミ等で取り上げます、地区の整理と共に、ゆとりある街造りの為に文化的構想を手探り作業で賢明です。

住民の心の豊かさクオリティの向上を目指し、ロマンの香る八丈島構想は夢でしょうか。伝統的な和太鼓、シヨメ節等、島内の運動会等々を含め多才です。

また、メジャー産業である黄八丈、その他多種あります。

新たな文化的要素として、世界的著名な團伊久磨先生が残された別荘等、先生が国内数々ある島々の中で八丈島を選ばれた理由は、また今でも継続されているリピーターによる音楽会等、残された種々を探求する事により東京都の知恵を借り文化的、更に観光面でも非常に貴重な資源、参考資料の発掘になる気が致します。

ロマンの香り構想、八丈島を今でも愛する島民の一人です。





## 「天草倉庫の思い出」

38年度卒 佐藤千鶴代

ある日の役員会での事、会も終わりに近づいた頃に「ネエ！天草倉庫を覚えてる？」の一言にいつい興じてしまい、今回会報に思い出を寄せることになりました。

(思い出その1)

多分、私が2歳前後の頃、夕飯の支度を終えた母がこっそり家を出ていく姿に気づき後を追った。母はそんな私を可哀そうに思ってたか背中におぶうと向かった先が天草倉庫であった。

倉庫の裏側からこっそり覗いてみると布が張られ、かすかに揺らんでいた。子ども心にその垂れ幕にはきらびやかな映像と静かな間に響く音響があり、驚いた覚えがある。中の様子を見るだけですぐに家路に引き返したが、その日の帰り道、母の背中から見上げた夜空の星の輝きがとても綺麗だったことを記憶している。

(思い出その2)

多少物心がつき、あちこち出歩くのが楽しくなった私は、近所の普段から親しく可愛がって頂いている小父さん、小母さん、その娘の大的仲良しYちゃんと一緒に天草倉庫に映画を観に出かけた。料金を支払ったのかどうかはよく覚えていない。倉庫内では莫座に座って観ていた。当時はチャンバラや三度笠など流行りて大川橋蔵や美空ひばりが出演していた。悪者が退治される場面になると観客から大きな拍手が沸き上がりとても楽しかった事を覚えている。また興に乗っている最中に突然『バチン』という音と共に倉庫内が真っ暗になりがっかりする場面も。『ガラガラ』と回るフィルムの音と共に懐かしい思い出である。

(思い出その3)

その昔、天草倉庫なのかその敷地内であったのか記憶が曖昧であるが保育園？があったように記憶している。

兄が通っていて、妹の私も保育してもらったようでかすかに遊んだ覚えがある。兄はともてもいたずらっ子で知能犯、保育園の床下にホースを持ち込み放水したとかで、母が大変困っていた様子が今思い出こすと微笑ましい。

(思い出その4)

天草倉庫はある時期まで出入り自由、お隣の大神宮の社と同じく子どもたちの格好の遊び場であった。大人に怒られることもなく出入り自由、舞台上に上がったたり下りたり友達とかくれんぼや追いかけっこをして日が暮れるまで遊びに興じていた。ほのかな天草の香りが懐かしい。

(思い出その5)

天草倉庫の前は『ひろば』になっていて、例年お祭りになると集合場所となりまた余興のための舞台が臨時に組まれていた。

大神宮のお祭りには、だしの牛の背にやぐらが組まれ、可愛なお稚児さんが乗っていた。八幡神社までだしを引くと子どもたちにはご褒美のお菓子が配られとても楽しみにしていた。祭り後には、舞台で演芸会が催され、地元の青年団の中には小学校の先生方も加わり劇が演じられた。普段接している先生方のまた違う一面を発見し興味津々であった。

(思い出その1)から(思い出その5)まで思い出を綴ってみるとその当時の事がよみがえり景色や人物、人の息づかいまでが身近に迫ってきてとても懐かしき思い出に浸ることが出来る。当時は、人と牛とが道を歩き交うのどかな風景とゆったりとした時間が流れており、私自身の大事な原風景となっていた。温かい八丈島の人情の下で心豊かな情操を育まれ、自然の優しさや厳しさを感じながら成長してきた。八丈島の荒々しい岩肌に打ち付けられる波の音、八丈太鼓は今も私の体の中に強く響き励みとなっている。八丈島に生まれ育ったことを有難く誇らしく思う。

風光明媚な八丈島の自然は今また注目され海や山へと観光客の人気を博している。これから八丈島の未来がますます明るく輝かしいものでありますよう心から願っている。

「護神天草倉庫余談」

ページ6に続く。

## 私達（ワイら）の同窓会

四一年度卒 鈴木茂  
2022年10月記

高校を卒業して上京、神奈川県から始まり千葉県と、関東住まいをしていた。

27歳で転職を経験し、それから50歳まで黙々と機械関係の仕事人間として人生を過ごしていた。そして、それまでは島の仲間とは無縁の生活をしていた。

しかし、50代のあるときの夜、電話が来た。

私「もしもし」

「しげる君か！ワイのこと覚えてるか、Mだよ」

私「おーMちゃんか！ー！」

突然の電話で驚いたのと同時に頭の中の記憶がグルグル回り始めた。富士中時代であるが、彼の家は通学路に面しており、道側に彼の部屋がある。帰り道、僕は道端で立ち止まり、彼が部屋にいるか中の影を確かめる。

『居たっ！』（心の声）その後「Mちゃん、居ろかー」と僕は呼ぶ。そうすると窓がガラガラと開き「あんどう？」と返事、その後はおしゃべりタイムと言った具合である。そして30分ぐらいい学校行事の話とかをする仲良し友達なのである。

彼の電話を受けた途端、あの時の足元の砂利の感触、日差し、風の匂いが30年の時を経て舞い戻ってきた。懐かしい！

M「そいでのー」

M「ちゃんの声と話し方は昔と変わらない。」

僕「うん」

M「三根会に出ない？」

僕「あんまりのー、分かんなくなつきや、あだんするかの」

と言いつつMちゃんとの懐かしさで心地よくなっていた。

M「わいが幹事だからよー、しげる君もでこ」  
モチロン心は決まっていた。

僕「Mちゃんに会えるんだった行くわ」

これが、三根会の始まりである。

三根会で会った同級生達、最初は誰だか分からなかったが話していくうち、嘘みたいに分かってくる。そして小中学校生時代にタイムスリップするのである。もう50歳過ぎなのにそんな事は忘れてしまつて同級生としかできないかけがえない時間を過ごすのである。そして、先輩、後輩、親戚、近所、とその輪は広がっていった。

Mちゃんがきつかけで参加するようになった三根会。その後、彼の呼びかけで近い学年の「ほーべー」達が集まる親睦会も年末にあり2回ほど参加するようになった。これも毎年恒例だったみたいだ。

「だったみたいだ」何故そんな言い方をするかと言うと、久しぶりのMちゃんとお付き合い合っても10年経つか経たなMちゃんとき、突然、亡くなつてしまったのである。寒い日に風呂に入るとき血圧が上がって倒れる、あれ、である。突然知らされたのだから信じられなかった。

Mちゃんにはずーとダラダラと気持ち良く付き合っていたかった。あの居心地の良さ、特に何するわけでも無いのだけれど隣りにいるだけで懐かしくて落ち着けるのだ。昔のこともよく知っていて

M「あのとき〇〇〇〇だったのー」

僕「へー、しよくなかったよ、そごんか」

てな、会話であるが気兼ねなく心地よいのである。ありがとうMちゃん、ワイは悔しきやよー。

それから僕も同窓会に積極的に参加するようになった。

ワイらの同窓会は毎年、三根会に集まることである。そして『時間が足りなくて二次会』『楽しくて三次会』と、終電そつちのけで仲間との時間を過ごすのである。

三根会の皆さんどうですかね、・・・  
「ウンそごんだら」と頷いて欲しい。

そして島では毎年8月12日に集まって同窓会が開催されている。50才、60才まで仕事人間で、お盆となると会社ではお客様の機械メンテナンス工事が多く入り、シフトで数日出社しなければならずこの同窓会には行けずじまいだった。毎年同窓から電話がかかってくる。「今年もやるけど来れんない？」「仕事で行けんなくなつきや、かんのべんのー」を何年も続けていた。本当に幹事には悪かったと思っている。

今もフルタイムで仕事をしているがここ数年は働き方改革で会社自体のお盆工事も少なくなり、有給も率先して取れるようになった。

しかし、コロナの影響で数年動けずじまい、この思わぬ仕打ちにはがっくりである。最近はずいぶんコロナ体制になりようやく自由な行動の兆しが見えてきた。島の同窓会には積極的に出るようにし、同時に島のお盆を楽しみたいと思っている。

島の同窓のみんなへ、

「持ち回りの幹事が大変と聞いたーが、頑張つて続けようよー」

※Mちゃんに捧ぐ

## 遺書

海軍少佐 冲山文忠命

昭和二十年五月十五日

南西諸島方面にて戦死

東京都八丈島大賀郷村出身二十五歳

### (前略)

今、敵米英艦隊が断末魔の苦しみにもがいて居る戦場に程近い基地で待機、今日明日の必死必中攻撃を待って居ります。

今は何も憶ふ事はありません。唯、青史まさに三千年ゆるぎなき神州に生を亨けて二十有余年、宏大無辺なる鴻恩(こうおん)に浴し父母の慈愛に育まれ、山よりも高く海よりも深い師の導きにより、大東亜の盟主たる皇国民として大過なく今日あるを得、今又赤子の一人として神風特効隊員として神州の不滅を確信しつつ悠久の大義に生きる。例へこの身は敵米艦と共に太平洋のもくずとならうとも、日本男児と生を享け之に過ぐ可き本懐が又とありませうや。

### (中略)

皇国の興廢を賭するこの一大過渡期に当りて、君の御楯と散り行くわが身は実に幸福であります。最後に臨み申し上げ度き事は、皇室のご安泰と大東亜の健全なる發展を神かけてお祈り申し上げると云ふ事であります。

尚、亡き母は勿論、父上始め肉親の皆様、長々のご苦労のみお掛けして何等為す処もなく、孝養らしき事すらせずして去り行く私を何卒お許し下さい。では皆様末長くお幸福に。

昭和二十年五月六日

冲山文忠

冲山徳三郎殿

(靖国神社社務所 平成二十七年五月拝殿・社頭掲示)



## 八丈島三根会四十周年記念

### コースター作りました！

第40回 三根会総会で会員皆様に配布致します。

三根会を思い出しながら楽しくお使い下さい。

### 「護神天草倉庫余談」

- A-ワイらがねっけ頃、天草倉庫で映画をよく見とーじゃ。  
B-見た、見た。映画の知らせがあるとよく行った一の。  
A-チャンバラ映画が多かったら。片岡千恵蔵とか、中村錦之助(萬屋錦之介)、大川橋蔵だろー。  
B-他にも長谷川一夫、市川雷蔵、大友柳太朗主演の映画などもよくやったたら。  
A-裕次郎や小林旭の映画も共栄劇場ができる前からやってあるーじゃ。  
B-そいとハリマオの映画のシリーズも面白かったら。パンダナの頭巾かぶってサングラス。かっこよかっとなーて、銀玉鉄砲買って真似しとーじゃ！  
A-ハリマオ役の俳優の人も天草倉庫に来て映画上映の時に挨拶しとーがしょっけか。  
B-しえいよ。そごんだ、神港の漁船に乗って海上で撮影していたらしいじゃ。  
C-月光仮面の映画もシリーズで何回か見とーじゃ。  
A-そごんだ、そごんだ、あの頃は夢中になってみとーじゃ。  
B-それと、だいだったか、裏口からへいってスクリーンの裏から見ていたやつもいた一の。  
ズルしてただで見たーる人があったら。  
C-ところであの天草倉庫の映画の入場料はいくらだつとー？

ひっかすった？

- A-確か、10円か、20円くらいだったじゃ。  
B-そごんどうか。確か、赤松ハイヤーで映画の事業を運営していたと思うわ。  
A-映画のほかには劇団も来て演劇もやっとうじゃ。時代劇だつとーかの。当時、毎年劇団が来ていたような気がするが。  
B-他にも紙芝居もやってなかつとーか。  
A-祭りの時には相撲をした一よ、そのあと夜になって青年団の演奏や演劇もやった一の。  
B-そごんだ。天草倉庫で芝居やバンドの演奏などもやったら。  
C-他にも学校の剣道や柔道の練習にも使っていたら。  
A-当時は三根や島の行事で便利にあんにでも使つとーじゃ。  
B-だいどん本来の天草倉庫は海で取れる天草のための倉庫だじゃ、そごんだろ。  
C-当時、八丈島では天草取りは盛んだったら。夏なつて天草が解禁されて漁師の人らがこけえ天草を持ってきて売ったろうが。売買される場所だったじゃ。  
A-あにんかもひと昔前にはこの天草倉庫はいろんなことに使つとーて三根の人らから親しまれていたのがよくわかるじゃ。素晴らしい倉庫だったら。  
B-「天草倉庫に万歳！」  
A-B-C「天草倉庫に乾杯！」

会報編集局より

## 第40回八丈島三根会総会

12:00 三根会総会開催（司会 幹事長 鈴木 茂）  
 会長挨拶 会長 峯元 信博  
 会計報告と会計監査報告 鈴木 茂  
 来賓挨拶 八丈町町長 山下 奉也  
 来賓挨拶 八丈町議長  
 来賓挨拶 三根小学校校長 大場 一輝  
 来賓挨拶 都議会議員 三宅 正彦  
 乾杯 名誉会長 小宮山 肇

<歓談>

13:30 懇親会（司会 幹事 本荘 薫や）  
 子供フラダンス レイアロハフラスタジオ  
 しょめ節 有志  
 太鼓大会 有志  
 恩師紹介  
 学年クラス紹介 有志

<歓談>

14:50 校歌斉唱 （全員） 会員有志  
 万歳三唱 顧問 太田 中

15:00 終了



### 三根小学校校歌

作詞 野口雨情  
 作曲 藤井清水

一、朝日はのぼり輝やきて

八丈富士の峰高く

仰ぐわれらの三根校

仰ぐわれらの三根校

二、剛健不撓の精神に

流れも強き黒潮の

沖ゆくごとく進みなん

沖ゆくごとく進みなん

三、磯うつ浪の絶ゆるなく

朝に夕べにいそしみて

いざもろともに励みなん

いざもろともに励みなん

### 協賛

・有限会社 坂下酒造 ・八丈興発 株式会社

### 協力

・八丈島町役場 ・八丈町立三根小学校 ・八丈町立富士中学校